

■新渡戸稲造 農業経済学者。台湾統治経済を確立，一高校長として影響大，国際連盟事務局次長後，国際平和に尽力。

にとべいなぞう

生麦事件・・・1862＝ 盛岡で，南部藩奥御勘定奉行新渡戸十次郎の三男に生まれる。幼名稲之助。
祖父は三本木開拓者新渡戸伝。

明治維新・・・1868＝ 6歳：

廃藩置県・・・1871＝ 9歳：兄の道郎とともに上京し，叔父の太田時敏の養子となる。

明治6年政変 1873＝11歳： 東京外国語学校英語科に入学，1年先輩の内村鑑三が病気休学して同級となった。

三つの反乱・1876＝14歳： 東北巡幸中，新渡戸家を行在所にした明治天皇から，祖父と父の開拓事業を褒められ，'今後とも，一族が農に励むように'と声をかけられたことを知らされて，奮い立ち，農学を生涯の仕事にすることを決意，
西南戦争・・・1877＝15歳： 札幌農学校に第二期生として入学，クラークの感化を受けた一期生に導かれ，
大久保暗殺・1878＝16歳： 内村とともに，ハリスから受洗して札幌バンドの一人となる。
・・・・・・・1880＝18歳： 盛岡へと帰るが，母は死去して悲嘆，鬱病がさらに悪化するも，内村鑑三からの激励の手紙によって立ち直り，再び上京，ハリスに再会，トーマス・カーライル「衣服哲学」を譲られて読み，完全に回復。

明治14年政変1881＝19歳：
新体詩抄・・・1882＝20歳： 農商務省御用掛となるも，勉学の気持抑えがたく，
岩倉具視没・1883＝21歳： 上京して，東京大学選科入学。同時に成立学舎にも通うが，
秩父事件・・・1884＝22歳： 不満を感じて中退し，渡米，ジョン=ホプキンス大学で学ぶ一方，
帝国大学始・1886＝24歳： ボルティモア友会会員すなわち，キューカー教徒となり，生涯の伴侶メアリー=エルキントンと出会う。
国民之友始・1887＝25歳： ドイツのボン大学でも農業経済学，統計学を学び，

帝国憲法発布1889＝27歳： 長兄七郎の死去で，新渡戸姓に復帰。最初の著作「日米通交史」でジョン=ホプキンス大より名誉文学士。

足尾鉍毒始・1891＝29歳： ジュネーブの大学で講演するなどした後，
メアリー(日本名：萬里)と結婚して帰国，札幌農学校助教授になる。
皇室への敬愛は変わらず，教え子たちに影響，
地方の夜間学校教育，女子教育に深い関心を持ち続け，

日清戦争始・1894＝32歳： 札幌に，遠友夜学校を設立。

八幡製鉄始・1897＝35歳： 過労で夫婦とも体調を崩し，札幌農学校を退職して，群馬県で療養中に，*「農業本論」を執筆し，
子規句歌革新1898＝36歳： {実業之日本社}の前身大日本実業会から「農業発達史」。裳華房から出版。
Bushidou・・・1899＝37歳： さらに，アメリカのカリフォルニア州で転地療養すると，「BUSHIDO, the Soul of Japan」を書き上げて，
ピアノ国産化・1900＝38歳： ヨーロッパ視察。パリ万国博覧会の審査員を務める。米国で出版。
田中正造直訴1901＝39歳： 後藤新平から，台湾総督府に招かれ，臨時台湾糖務局長となり，糖業による経済的基礎を確立。

日比谷公園・1903＝41歳： 京都帝国大学法科大学教授を兼ね，

日露戦争終・1905＝43歳： 植民政策の論文で法学博士。牧野伸顕文相の意向で，
満鉄発足・・・1906＝44歳： *第一高等学校校長に就任すると，学生に高遠な理想と自己反省を促し，世渡りと修養を通俗的に説き，
韓国反日暴動1907＝45歳：
アラビヤ創刊・1908＝46歳： 「BUSHIDO, the Soul of Japan」の櫻井鴎村による日本語訳「武士道」が出版される。{実業之日本}社長増田義

一から懇請されると，学者らエリートの反対も気にせず，
伊藤博文暗殺1909＝47歳： 東京帝国大学農科大学教授を兼任。_{実業之日本}編集顧問となって，誌上でも広く青年に訴える。
大逆事件判決1911＝49歳： 日米交換教授として渡米，各地で講演する。

明治天皇没・1912＝50歳：
大正政変・・・1913＝51歳： 東京帝大教授専任となり，植民政策講座を担当。

民本主義・・・1916＝54歳： 東京植民貿易語学校校長に就任。

ロシア革命・1917＝55歳： 拓殖大学学監に就任。

本格政党内閣1918＝56歳： *初代の東京女子大学学長に迎えられたが，国際連盟事務局次長に内定したため，

ベルサイユ条約・1919＝57歳： 渡欧し，

大暴落・・・1920＝58歳： 就任，

原敬首相暗殺1921＝59歳： チェコのプラハで開催された世界エスペラント大会に参加。
この間，欧米の一流人物と親交，

治安維持法・1925＝63歳： 帝国学士院会員に任命される。

円本時代始・1926＝64歳： 国際連盟を退任し，貴族院議員，

金融恐慌・・・1927＝65歳： この年に竣工した大隈講堂のこけら落としに，増田義一の支援もあって，

共産党事件・1928＝66歳： 早稲田大学で連続講演。東京女子経済専門学校(のち新渡戸文化短期大学)の初代校長に就任。

世界恐慌・・・1929＝67歳： 太平洋調査会理事長に就任し，"太平洋の橋"を自認して活動，
この間，御進講などで，四度謁見した，昭和天皇への敬愛は一層強く，多数の弟子たちを通じて，戦後の重大な岐路で，象徴天皇制に導く転轍機の役割りを果たすことになる。

満州事変・・・1931＝69歳： 上海での第4回太平洋会議に出席。<満州事変>が起きると，

五一五事件・1932＝70歳： 渡米して日本の立場を弁護するなどしたが，

国際連盟脱退1933＝71歳： *カナダ・バンフで開催の第5回太平洋会議に出席，ビクトリア市にて客死，勲一等瑞宝章が追贈された。

産経「日本人の足跡」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」。Wikipedia・岡本嗣郎「終戦のエンペラー 陛下をお救いなさいまし」・藤井茂「増田義一伝」で追補，